

中学校自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している生徒の 進路と引継ぎに関する調査研究

○井上和久 (大和大学教育学部) 井澤信三 (兵庫教育大学大学院) 郷間英世 (姫路大学大学院) 姉崎弘 (常葉大学教育学部)
KEY WORDS: 自閉症・情緒障害特別支援学級、進路、指導・支援

(目的)

近年、特別支援学級の在籍児童生徒数が増加しており、自閉症・情緒障害特別支援学級については、顕著な増加が見られる。中学校学習指導要領解説(2007)には、障害のある生徒を指導するにあたり個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を行うこととし、進路指導については、将来、様々な生き方や進路の選択可能性があることを理解するとともに、自らの意志と責任で自己の生き方、進路を選択することができるよう適切な指導・援助を行うことが必要であると示されている¹⁾。しかし、中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級の場合、自閉症スペクトラム障害のほか、情緒に問題を抱える生徒も多く在籍しており、知的障害を併せ持っている生徒や知的障害がほとんど見られない生徒が在籍していると推測され、個々の障害等の状態に応じた進路指導や必要な支援を継続するため、高等学校等の合格後の進路先への引継ぎが必要であると考えられる。そのため、本研究では、中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級在籍生徒の進路の実態と進路先への引継ぎの状況を明らかにするため調査を行うこととした。

(方法)

調査対象は、岐阜県、京都府(京都市を除く)、兵庫県(北・西播磨地域)、和歌山県、岡山県、鳥取県、香川県の中学校の全て(693校)とした。調査期間は、平成28年7月上旬～8月下旬であった。郵送による質問紙調査を実施した。学校名・記入者名は無記名で行い、返信用封筒を同封し回収を行った。本研究では、各中学校長に、調査の目的、調査の回答は任意であること、中学校名等個人及び個々の学校の情報については全て出ないよう統計処理を行うことを文書で説明した。質問紙を配布し回答をもって同意を得たこととした。回収数は269校で、回収率は38.8%であった。

(結果)

回答のあった中学校の全自閉症・情緒障害特別支援学級数は227学級であり、在籍生徒数は811人であった。知的な遅れのないまたはほとんどない生徒が520人(71.3%)であった。軽度が161人(22.9%)、中度が34人(4.7%)、重度が5人(0.7%)であった。

平成27年度の卒業生211人の進路先についての回答結果を表1に示した。特別支援学校高等部は61人(28.9%)であった。国公立・私立全日制高等学校は85人(40.3%)であった。私立通信制高等学校は27人(12.8%)、公立定時制高等学校19人(9.0%)あり、通信制サポート校を含めた高等学校等への進学者は145人(68.7%)であった。

卒業生211人のうち196人(92.9%)が進路先への支援の引継ぎが行われていた。中学校から進路先への引継ぎの方法についての回答結果を表2に示した。中学校担当者が進路先を訪問して行った生徒は115人(54.0%)で一番多かった。進路先の担当者が中学校を訪問して行った生徒は58人(27.5%)であった。保護者を通して情報提供を行った生徒は28人(13.3%)、電話による情報提供が21人(10.0%)、郵送による情報提供が13人(6.2%)であった。

表1 平成27年度に自閉症・情緒障害特別支援学級を卒業した生徒の進路先

回答項目	人数 (%) n=211
特別支援学校高等部	61 (28.9%)
国公立全日制高等学校	47 (22.3%)
私立全日制高等学校	38 (18.0%)
私立通信制高等学校	27 (12.8%)
公立定時制高等学校	19 (9.0%)
通信制サポート校	11 (5.2%)
私立定時制高等学校	2 (0.9%)
施設通所・入所	2 (0.9%)
公立通信制高等学校	1 (0.5%)
就職	1 (0.5%)
その他	2 (0.9%)

表2 中学校から進路先への引継ぎの方法

回答項目	人数 (%) n=211
個別の教育支援計画	114 (54.0%)
個別の指導計画	97 (46.0%)
口頭のみ情報提供	60 (28.4%)
サポートファイル・相談支援ファイル等	37 (17.5%)
心理検査・発達検査等の結果報告書	23 (10.9%)
その他の文書・資料	11 (5.2%)

中学校が進路先へ提供した情報について表3に示した。個別の教育支援計画が114人(54.0%)で一番多く、個別の指導計画は97人(46.0%)であった。口頭のみ情報提供は60人(28.4%)で、サポートファイル・相談支援ファイル等が37人(17.6%)、心理検査・発達検査等の結果報告書が23人(10.9%)であった。

表3 進路先へ提供した情報

回答項目	人数 (%) n=211
中学校担当者が進路先を訪問して行った	115 (54.5%)
進路先担当者が中学校を訪問して行った	58 (27.5%)
保護者を通して情報提供を行った	28 (13.3%)
電話により情報提供を行った	21 (10.0%)
郵送により情報提供を行った	13 (6.2%)
その他	4 (1.9%)

(考察)

調査結果から自閉症・情緒障害特別支援学級の卒業生の約3分の2が高等学校に進学しており、90%以上の生徒が進路先への情報提供が行われていた。中学校・高等学校等の担当者が相手先を訪問して引継ぎ会等により情報提供が行われているケースが大半を占めており、約半数の生徒の個別の教育支援計画・個別の指導計画が引き継がれていた。一方、口頭のみ情報提供が行われた生徒が約28.4%、保護者を通しての情報提供が13.3%あり、必要な支援を継続するための引継ぎシステムの必要性が示唆された。

(文献)

- 1) 文部科学省(2007): 中学校学習指導要領解説総則編. 東ぎょうせい, 68-69, 75-76 (INOUE Kazuhisa, ISAWA Shinzo, GOMA Hideyo, ANEZAKI Hiroshi)